

# 平成 28 年 2 月 13 日（土）協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

## ■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、NPO・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる平成 27 年度報告会を開催しました。

## 1 日時・場所

- 平成 28 年 2 月 13 日（土） 午後 1 時 30 分～4 時 50 分
- 江別市民活動センター・あい（江別市野幌町 10 番地の 1 イオンタウン江別 2 階）

## 2 プログラム

### ●協働のまちづくり活動支援事業の事例報告

○報告団体（報告順）※カッコ内は連携団体

- ①語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭
- ②江別創造舎（のっぽろ七丁目放送局）
- ③メディネット江別（江別観光ボランティアガイド）
- ④フォーラム野幌の森（日本野鳥の会 江別支部）
- ⑤NGO 江別で外国人と仲良くしよう！（北海道情報大学 E S S）
- ⑥江別子ども劇場
- ⑦幸せなまちづくり江別の会（大麻ジュニアクラブ）
- ⑧ A C ネットワーク研究会（おおあさの孫プロジェクト）

### ●事業報告会コメンテーター（左から、千里氏、佐藤氏、宮本氏）



- 千里 政文 氏（北翔大学大学院生涯学習学研究所 教授）  
佐藤 功 氏（江別市自治会連絡協議会 会長）  
宮本 奏 氏（NPOファシリテーションきたのわ 代表）

●各団体の事業報告及びコメンテーターの質疑・コメント（概要）

①【語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭】

「えべつ俄（にわか）」

**発表者：**昨年度に引き続き、今年度もいろいろな所で活動してきました。今年度の演目は「江別版 9.11 皆さんどうもありがとうございますの巻」で、最初はネクサスコート北大前で約 100 名の前で公演を行いました。7 月 4 日にセラミックアートセンターロビーでお話し会と一緒に公演を行い、7 月 5 日は「えべつ女性協まつり」（江別市民会館）で約 400 名の方に楽しんでいただきました。9 月 26 日はイオンタウン江別での「江別市民活動見本市」、同じ日にアートスペース外輪船で「カゼトモニ」に出演、30 名ほどの参加者でした。9 月 27 日には琴似コンカリーニョ、同じ日に「江別市総合芸術フェスティバル」（江別市民会館）に出演しました。10 月 4 日に、「土佐市・江別市交流文化祭」のため土佐市に出向き、300 名以上の方に見ていただき、「えべつ俄（にわか）」を始めるきっかけとなった「北原俄（にわか）」の方々とも交流ができました。11 月 21 日の「にこにこフェスティバル」（ぽこ あ ぽこ）では幼児対象であったがとても楽しんでくれました。12 月 5 日は「ドラマシアターども」、12 月 12 日は富久屋館（高齢者施設）に出向き、ここまでで 11 回の公演を行ってきましたが、明日 12 回目として「柿の家」で公演させていただくことになっており、予定以上の公演を行うことが出来ました。また作成したチラシ 5,000 部はすべて配布しました。パンフレットも 5,000 部作り、現在も配布中です。パンフレットには江別市長、土佐市長からもコメントをいただきました。



これからも色々なところで呼んでいただけたらと思います。江別には大麻高校や、大学、2つの劇団があり演劇が盛んで、私たちは演劇を 4 コマ漫画的に親しめる活動していきたいと思っています。昨年度は紋別へ行き、今年度は土佐に行きました。今後もボランティア団体に登録したりして、色々なところで発信していきたいです。

課題としては、収支部分で旅費交通費が自己負担として大きくなってしまいました。

交通費などのお金がかかるので資金も集める努力をしていきたいと考えています。

**宮本：**予定していた回数を上回るのではないかとということで、素晴らしい成果だと思いました。この 2 年間で幕が出来たり、パンフレットが出来たり、公演回数も増えてきたりしている中で 3 年目の展望があれば聞きたいです。例えば、どんな方々に見せたいとか、どんな場所でやってみたいとかお聞かせ下さい。

**発表者：**回数をもっと増やしたいのと、俄（にわか）という演劇の形をもっと親しみやすいものにしていきたい。そのために気軽に声をかけていただければもっと色々なところでやっていきます。

## ②【江別創造舎】（連携先：のっぽろ七丁目放送局）

### 「江別カルタで迎える江別物語 2015」



**発表者：**今年度は3年目を迎え、最終年として、江別カルタの題材の文化・歴史をテーマとして、江別カルタの解説書を執筆していただいた佐々木孝一氏に講演をお願いしました。そして、カルタの題材にある歴史にまつわるクイズを行い、そして江別カルタ大会を行いました。それぞれの優勝者には江別カルタを贈呈いたしました。そして一番のメインは、3回目の新たな試みとして市内在住のシンガーソングライター大谷木正隆氏作詞・作曲で「江別カルタ

の歌」を披露して頂きました。本事業のライブ映像を全行程、のっぽろ七丁目放送局により生ライブ配信しました。

事業の継続性については、今後も世代を繋ぐコミュニケーションツールとして継続的に活動を続けていければと思っております。

昨年度9月20日（日）アートスペース外輪船で行いましたが、日程設定のミスとして敬老会と重なってしまったことがあり2年間来ていただいた方々に来ていただけなかったことは反省点です。これまでの2回は江別市民会館で行っていましたが、折角、歴史・文化のカルタをするので、題材の中にあるアートスペース外輪船を会場に利用しました。最終的な参加者数は、リアル視聴者、アーカイブ視聴者、来場者の総計で187名、そのうち会場にお越しいただいたのは25名でした。

江別カルタを取材していただいた第一中学校の生徒も参加していただき、若い学生から高齢者まで幅広い世代が交流出来たことは大きな成果として挙げられます。

独創的な部分は、カルタ句を作って、その題材をもとにクイズや講演を行ったことが江別創造舎独自のイベントになったのではないかと思います。また、カルタサイズだけではなく、レンガサイズの独自性のあるものを制作して活用したことも独創的な部分であります。

3年間活動させていただいたことにより、自治会や蒼樹大学などで継続的に利用していただいていること、ネット配信により視聴者も増加しています。アナログのものにデジタルの力を借りて継続的に活動していきたいと思っております。のっぽろ七丁目放送局の技術により、アーカイブとして残っていくこと、放送局に出演しているアーティストによって「江別カルタの歌」が生まれたことは大きな生産物だと思っております。今後も発展的な江別の地域文化振興のツールとして続けていきたいと思っております。

**佐藤：**3年間お疲れさまでした。大麻の市民団体が5つカルタを買って大麻の小学校に配ったと聞いています。また自治会でもまとめて購入したようですが、その後どのように活用されているかを調べているのでしょうか。

**発表者：**大麻の市民団体の件は存じておりませんでした。

佐藤：カルタイベントのことについては良くわかりましたが、カルタの自体のことも大事だと思っています。カルタを広めていくために、その後のことも考えていただければと思います。

### ③【メディネット江別】(連携先：江別観光ボランティアガイド)

#### 「我がまち江別を知ろう、知らせよう事業」



発表者：今回の活動も3年目となり最後になります。概要としては、江別市の歴史、観光・名所旧跡を記録することで、全国・江別市民に発信していくこと、また、江別観光ボランティアガイドの活動状況を記録してDVDとして残し、ボランティアガイドの活動に活かしていくことを進めています。それと後継者を作ろうということでビデオ講座を開催し、撮影スタッフの育成を行っていますが難しいところがあります。今期の新しい事業として古いビデオテープ

をDVD化することにお金を使わせていただきました。

事業の実績としては、江別観光ボランティアガイドさんの活動状況の撮影として10月9日に女性大会の講演を撮影、江別市の紹介ビデオの制作としてえべつTVの事例紹介をしており、色々な内容の発表もしています。例えばヒダ工場がリニューアルされた新しい商業施設「EBRI」の追跡撮影もしており3月のオープンも撮影したいと考えております。江別市民活動見本市では撮影した5本を流してもらいました。この他、ホルスタインショーや江北地域のひまわり迷路、野幌太々神楽、水野信太郎先生の赤レンガの紹介、見晴台自治会の避難訓練を撮影しました。地域の避難訓練は映像に残すことはこれまでにあまりなく、今後は他の自治会でもやっていきたいと考えています。撮影スタッフの育成として、9月19日、26日にビデオ講座を開催しました。2回とも6名、計12名が参加しましたが、後継者とまではいけなく、これからも継続していきたいと考えています。これは前年度にパソコンを購入させていただき、継続できる下地を作ることができたので今後も続けていくことができます。

次に思い出を新メディアに変換するという新しい事業です。盤溪小学校で平成2年に写されたものをDVD化したものです。テープでは劣化していくのでDVDにしています。まだ1件ですが、今後も進めていきたいです。

続いて今回の事業の実施効果ですが、観光ボランティアガイド活動の支援や市民活動の催しなどあまり紹介されていないものを着眼点として取り上げています。あとEBRIの変遷を追っていきます。これはなかなか出来ない事なので、こういったことをやっていきたいです。これを「えべつTV」で紹介していきます。

これらの事業の収支決算ですが、支出はメディアの変換機器、撮影の記録メディアに使わせていただきました。

千里：ネットで何回か見させていただきましたが、江別の知らないことがよくわかり、記録という

のは大事なものだと感じました。ただ一つ確認をしたいのは、後継者の部分で苦勞されていると思うが12名講座を受けていて後継者に繋がっているのかが気になるのと、DVDに変換が1件ということで広報活動はうまくいっているのかを知りたいです。

**メディネット**：まず後継者の件ですが、あじさい亭の事務局長達とビデオ講座を開催し、一緒に後継者育成をやっていこうという話で進めているがメディネットに入るところまでは至っていません。それからDVDの変換についてもあじさい亭と一緒にやっており、あじさい亭の機関紙にも掲載していただいて、あじさい亭の事業としてもやっていくことにしています。

**千里**：ありがとうございました。出来ればDVDと一緒に私たちが知らない古い江別でオープンに出来るものがあるとよいと思います。

**発表者**：その点は個人の情報なので難しいものもあり、今回の盤溪小学校は許可をいただいているが、作ってもらうということに有りがたさを感じてもらっているのが現状です。

**千里**：その中で市民に有益なものがあれば公開してほしい。

**発表者**：出していけるものがあれば出していきたいです。

**宮本**：後継者問題というのは市民活動・NPO どこでも同じく悩んでいる課題だと考えていて、スキルアップという事で講座を開催していると思いますが、技術も必要だが、オリエンテーションみたいな団体説明会を開いてどんな活動をしているのかを紹介し、入りやすい会だというアピールを徹底すると興味がある人が増えるのではないかと考えました。

**発表者**：今後考えてみます。

#### ④【フォーラム野幌の森】(連携先：日本野鳥の会 江別支部)

##### 「未来に残そう野幌原始林」



**発表者**：フォーラム野幌の森と日本野鳥の会江別支部の共催事業は、講演会とリーフレットの作成という事業を行いました。まず講演会ですが、昨年11月15日に野幌公民館で札幌自然調査館技師の丹羽さんとこちらの松山さんが講師になり講演会を行いました。58名の方が参加しました。アーカイブもありますのでご覧下さい。

最初に丹羽さんが、生物多様性から見てどういう非常に価値があると、しかしこのまま維持できるのか、出来ない

と世界遺産に匹敵するような立派な森が存続できないので皆で考える必要があるということでした。

松山さんからはこの森を守っていくためには一人一人のマナーが大切なので、この森の大切さを考えて利用することをPRしていくことが大事であるとの話がありました。この講演会でもパンフレットを配り、活発に意見をいただきました。このパンフレットは6,000部作りました。北海道でもパンフレットを作っていますが、あまりマナーの面は表現していなく、森を踏み荒らす人も多くなっていました。ですので、マナーを重視して作らせていただきました。このパンフレットの原案を作るため、会員で5回集まり、その後に森林管理署と北海道とそれぞれ2回ずつ打合せを行いました。最終案は北海道博物館とも打合せを行い、パンフレットの完成につなげました。

パンフレットは、市内の公民館や公共施設、JR大森駅や新札幌駅、厚別区民センターなどの置かせてもらっています。このパンフレットを見て、活動にも参加してくれる人が出てくれると良いと思っています。

**佐藤：**立派なパンフレットを作っていただきありがとうございます。江別市と北広島市と札幌市厚別区と3市によるファミリーウォーキングが6月に行われていて、800人程度の参加者があるのですが、このような機会にこのパンフレットを配布すると有効な利用になると思います。来年、このような機会を利用してほしい。

**発表者：**ありがとうございます。是非配らせていただきたいと思います。また、ふれあい交流館でパンフレットを使った説明会を行いたいと考えています。

**宮本：**パンフレットを6,000部作ったということですが、この先なくなってしまうことも考えられるので、マナーの部分だけを大きなポスターとして印刷して掲示したり、ホームページに掲載したり、パンフレット以外でも伝えていければもっと広がるのではないかと思います。

**発表者：**ホームページには掲載しています。森林公園内は国と道と私有地とでなかなか連携が取れないのですが、何とか多くの人に見ていただけるようにしたいと思います。

## ⑤【NGO江別で外国人と仲良くしよう！】（連携先：北海道情報大学ESS）

### 「江別多文化共生のまちプロジェクト」

**発表者：**選考会での申込時は、国際交流ワークショップと海外留学体験レッスンと多言語サイトの作成を行うということでしたが、予算が減ってしまいましたので、多言語サイトの作成に絞って活動させていただきました。

サイトを作成して良かった点は、江別の魅力と情報を江別の外国人留学生とともに、画像を中心として多言語でわかりやすく伝える事が出来るベースが出来たことです。留学生ブロガーとして中



国とマレーシア出身の学生に書いてもらいました。ミーティングを行った際にアースドリームに行きたいということでこちらを記事にしています。

サイトを実際に見てもらいたいと思います。大きい画像が出るようにしました。やさしい日本語、英語、中国語、韓国語で表示し見やすくなっています、また、漢字・ひらがな・アルファベットで検索した時にこのサイトが上位に出てくると思います。英語、中国語など母国語で説明も出

来るのですが、日本語を学んでいるので、やさしい日本語で紹介出来るサイトが必要だと思ったので作りました。

PVは1日50から100くらいあります。その中で40%は海外からのアクセスです。その中で偶然このサイトを見るという事はまずなく、検索をしないと辿りつけません。100人だとして40人は江別に興味を持ってアクセスしているということです。半分がアメリカからで、中国は意外と少なく5%程度で、ヨーロッパ、東南アジアからのアクセスも多いです。今後はベースが出来たので、このサイトを使って、江別を発信したい江別在住のブロガーを増やし、記事を充実させていきたいです。

**千里：**実は先程からスマホをいじってサイトを探していました。まだ探せていないのですが、どういう風に探せば出てくるのでしょうか。

**発表者：**「えべつ.みんな」で探すと出てくると思います。あと海外からの場合はアルファベットでEBETSUと打つのでその場合は上位に出てくると思います。

**千里：**もうちょっとわかりやすく出てくるといいと思うのと、知名度を上げる事。探しきらないと探せないというのはインターネットの欠陥の一つだと思うので。あと、何カ国語でやっているのかと今後増やす予定はあるのかをお聞きしたいです。

**発表者：**今は、英語、中国語、韓国語、今後タイ語は作りたいと思っています。江別に住んでいる外国人の割合によっても増やす言語は決めていきたいです。

**千里：**言語を増やしていく予定はあるということですね。

**発表者：**増やす予定です。

**千里：**あとはどう発展させていく予定でいるのですか。

**発表者：**言語環境などの問題があり、今は札幌が多いが、それ以外の所に住みたいと思った時に語学環境が整っていれば江別を選んでくれるはずなので、江別の魅力をいろんな言語で発信されてい

けば外国人に伝わると思うし、今後自治体レベルでも必要だと感じています。

**千里：**江別の公的な外国人の関わっている機関のホームページともリンクしている、又は予定があるのですか。

**発表者：**私たちの団体は去年、国際交流推進協議会に加盟しましたので可能だと思います。

**宮本：**申請の時に北海道情報大学 ESS の学生との連携で応募したと思います。この団体との関わりはどのようなものだったのですか。

**発表者：**サイト制作はプロの方をお願いしたのですが、デザインや構成を学生と一緒に考えて作りました。

**宮本：**今回、減額されてしまったということはあったとは思いますが、助成金をどんなことに使われたのですか。決算の報告がなかったのでお聞きしたいです。

**発表者：**サイトを作成するための経費として使わせていただきました。

## ⑥【江別子ども劇場】

### 「江別子ども演劇クラブ」

**発表者：**江別子ども演劇クラブは 2014 年 4 月に発足し、今年度で 2 年目を迎えます。今年度は 40 回程度のレッスンと 4 回の発表を実施いたしました。演劇やダンス、小唄や歌などそれぞれ分野毎の指導を受け、発表出来るまでに練習を重ねました。

えぼあホールで行われた「子ども文化祭」において、450 人の観客を前に「カエルのフレンツェル」を演じました。子ども劇場出身の専門学校生に振付を担当してもらいました。



今後の課題や取り組みについてですが、課題はクラブのメンバーが 6 名しかいなく、少ないので増やしていきたいと思っています。その為の宣伝活動を今まで以上に増やしていきます。来年度も活動を継続していく計画をしていますので、発表についても機会を増やしていきたいと思っています。

活動紹介の中では、「子ども文化祭」についてのものがほとんどでしたが、うるうる亭さんの夏のやまびこ座公演のオープニングに出演し、演劇クラブの子ども達ならではのパフォーマンスをしました。これからの活動は、3 月 29 日に友愛ナーシングホームで披露し、30 日には情報図書館の



「おはなしいっぱい」で幼児にも見てもらう予定です。

それでは実際に演劇の一場面を皆さんに見てもらいたいと思います。(子ども達の演劇)  
予算は、衣装や舞台装置に使わせていただきました。

**宮本**：ありがとうございました。子ども達も本番と同じ衣装できちんと準備してきてくれて、非常に楽しませてもらいました。来年はスキルアップとメンバーを増やすことに力を入れていきたいということでしたが、どうしたらメンバーが増えるか、子ども達にも聞きたいと思います。

**発表者**：パンフレットの中にメンバーの募集も書いており、各小学校には配布しています。

**宮本**：きっと宣伝は出来ているのだと思いますが、子ども達は楽しいところに集まってくるのだと思うのでその楽しさとは何だろう。

**発表者 (子ども)**：活動は楽しいです。

**発表者**：何人かはパンフレットを見て見学に来てくれているが、最近の子ども達は忙しいせいかなかなか繋がらない。ただ今年はそういった声も拾い上げてメンバー増加に繋がりたいです。

## ⑦【幸せなまちづくり江別の会】(連携先：大麻ジュニアクラブ) 「ありがとうポストを設置しよう」



**発表者**：まず、昨年度の事業では大麻ジュニアクラブの子ども達にイラストを描いてもらい、ありがとうカードを作りました。今年度は、感謝の気持ちを伝える事の大切さを理解していただくために、日本各地で実施されている地域医療を守り育てる住民活動を紹介する冊子を作りました。ありがとうポストは段ボール箱に投入口を開け、子ども達に書いてもらったイラストを飾り、全体にシートをかけて作りました。イラストは大麻ジュニアクラブの子ども達に描いてもらい、また、市民活動見本市でも子ども達にぬり絵をしてもらいました。

また、11月28日から29日に東京で開催された地域医療を考える全国シンポジウムに参加し、その場で昨年の活動を報告し、ありがとうカードを配布しました。

今年度も事業の趣旨や活動状況を知ってもらうために、「ありがとう新聞」を8月、9月、12月の3回発行し、公民館や地区センターなど各所に配布しました。市立病院にありがとうポストを設置後、もう一回発行する予定です。おかげさまで、ありがとうカードとありがとうポストというツールが完成いたしました。今後は、心から医療者に感謝してその気持ちをカードに書いてもらい、

ポストに投函してもらえよう、日常的に患者さんと接している市立病院のボランティアの方々にこの事業の主旨を理解してもらい、協力を仰ぎありがとうございますポストを設置いたします。

**千里：**ありがとうございます新聞を拝見させていただきましたが、どこかに投函したということでしょうか。

**発表者：**公民館や地区センター、その他いくつかの場所です。ここもそうですが、A3のポスターを貼ってもらい、A4のものは置いていただいて自由に持って行っていただけるようにしている。

**千里：**ホームページなどの団体のページはあるのでしょうか。

**発表者：**フェイスブックページを作ろうと思ってやってみたのですがうまくいかず、今後はホームページ等も作り充実させていきたいです。

**千里：**北海道だけでなく全国的に医師がいない、医療現場が継続できないなどの問題があり、特に北海道は小さな町ほど医療機関がない。そのために命を亡くしてしまう事故がおきているものだから、江別は札幌が隣にあると言っても人ごとではないので頑張ってもらいたいと思います。この事業は最初から3年間の継続ということで、やっとツールが完成して今後どういう風に広げて行くのかと期待しております。

**発表者：**市立病院については、事務方には、こちらの団体で責任を持つという形で設置をすることに関しては止めるべきものではないと言っているが、一番協力してもらいたいボランティアの方々にはまだ細かく説明をしていないので、近日中にはご理解・ご協力をお願いして、その後設置をさせていただく予定です。1つ設置した事例があると次に進んでいけるのではないかと考えています。

**佐藤：**このように感謝の気持ちを示すというのは今の時代、非常に大事だと思います。もっと広めていくために診察に来た人にこういうことをやっていますよと知らせ、来年・再来年もやるということですから是非頑張ってもらいたいと思います。

## ⑧【ACネットワーク研究会】(連携先：おおあさの孫プロジェクト)

### 「市内幼稚園・保育園の畑づくり、野菜づくり体験支援事業」

**発表者：**今年度の私たちの取組みについてご報告いたします。市内の4つの幼稚園、保育園、小学校にて食育の体験授業サポートを行う事が出来ました。各所の条件に応じて、畑の開墾から収穫まで、畑のないところではプランター栽培での野菜作り体験、小学校の出前授業として収穫祭や野菜の叩き絵体験といったプランを提案し、実施しました。活動の際、怪我にも十分注意し無事に終わ



ることが出来ました。安全や事故防止を最優先に考え活動しました。

畑の専門的なメンテナンスサポートについて、普段の水やりや草むしりは子ども達にお任せし、野菜の日々の成長を直に目の当たりしてもらい取り組んでももらいました。私たちはカラスなどの害獣対策や、成長促進、畑環境の整備などを行いました。

市内の大学生や市民の参加促進については、おおあさの孫プロジェクトの協力により大学生に参加していただいたり、ブログや SNS での発信をしたりして市民の方にも参加していただきました。

食育の体験授業サポートの一環として FAX レターを子ども達に発信し、野菜に関する疑問や質問に答えるというコミュニケーションも行いました。

取り組みに対する感謝のメッセージを子ども達、先生や父兄の方々からいただきました。大学生と一緒にやれたことを感謝するメッセージもあり、大学生も来年度も行うなら参加したいとおっしゃっていただきました。

私たちが食育サポートを取り組んだことにより、子ども達に安心感をもって野菜作りをし、野菜のおいしさやおもしろさを体験させることが出来ました。私たちもその中からいろいろ学ぶことが出来ました。

課題としては、1 つは移動に関してで、学生等、参加者の移動について苦慮しました。荒天時の移動であったり、JR などから離れた場所にあたりする時は自動車での移動が必須になると感じました。自動車での移動が可能な場合でも乗車人数で参加者を限定する必要が出てきました。

2 つ目が先生方の経験や関心についてで、若い先生は野菜作りの経験がない、アウトドアの経験がないなどのことがありました。そのため収穫祭など内容を伝えるのに苦慮しました。そういった経験のない方向けの食育講座も必要であると感じました。

今後の取り組みとしては、来年も継続して行っていきたいと思います。食育サポートを行う学校を増やすとともに大学生や市民の方の参加も増やしサポート体制を強化していきたいと思います。

#### **連携先発表（おおあさの孫プロジェクト）：**

大学生の参加という役割でしたが、現場に参加してただ野菜を作るのではなく、どうしたらおいしい野菜が作れるのか、子ども達に教えることを支えてもらいすごく勉強になりました。

**佐藤：**いい活動をしたと思います。AC ネットワークとおおあさの孫プロジェクトの関係性をお聞きしたい。

**発表者：**普段から様々な地域活動において連携しており、今回の事業でも大学生の募集に関しておおあさの孫プロジェクトにサポートしていただきました。

**佐藤**：今回4つの場所で食育を行ったという事ですが、小学校では何の授業で行ったのですか。

**発表者**：生活の授業で2年生と4年生に行いました。2年生には叩き絵を体験していただき、4年生には収穫祭を行いました。どちらも生活のカリキュラムの中に組み込んでいただきました。

**佐藤**：各小学校に出向いてカリキュラムに入れてもらえるよう活動されているのですか。

**発表者**：小学校に企画書を提出させていただき、それに反応していただいた、幼稚園、保育園、小学校で行いました。

**佐藤**：今回は4つでしたが、たくさんの学校が希望してきた時に対応出来るのですか。

**発表者**：私たちの団体は少人数で活動しているので、大学生、市民にこれまで以上に周知し、大きな団体にしていきたいと思っています。その上で多くの学校に対応出来るようにしていきたいと思っています。

**佐藤**：活動を広げていくためにも人数を増やしてもらいたい。

**発表者**：おおあさの孫プロジェクトとも一層連携して多くの活動してもらえる人数を増やしたいです。そのためにも多くの方に周知していきたいと思います。

### <コメンテーター総評>

#### 【宮本 奏 氏】

皆さん、長い時間お疲れさまでした。来場者からのコメントに「とても良かった」という内容のものが多く、私もそう思っています。来年度以降も申し込む予定の団体は、より発展した、もっとおもしろいものを提案していただき活動していただけたらと思います。

#### 【佐藤 功 氏】

皆さんが、江別を活性化して何とか盛り上げていこうという気持ちを持ってやっていただいているのを感じました。本当にありがとうございます。今年で終わりの団体は来年以降も色々な方法を考えて是非継続してもらいたい、来年もある団体はもっと進歩した活動を期待したいと思います。

### <報告会全体総評> 千里 政文 氏

私からは全体的な総括をさせていただきたいと思います。全体的には素晴らしい発表でとても良かったと思います。ただ、少し反省点もございます。協働のまちづくりの発表というのは来ている方は江別市の中でいろんな活動をしていたりするので学ぶところが多いと思います。ですから発表

する時は必死ですが、むしろ発表した後に他団体の発表などを聞くことの方がすごく大切だと思います。そういう意味では主催者側が徹底していない部分もあったのかと思いますが、各団体最低一人は最初から最後まで関わるのが大事だと思います。それが上手くいかなかったので、タイムスケジュールを変えたりして対応しましたが、それが反省点であると思います。個々の発表は素晴らしかったです。

1年目、2年目、3年目の事業がありましたが、特に3年目の事業については、そこで終わるのではなく、これを基にして継続して行ってほしいと思います。

個々の事業について簡単に話させていただきます。

最初のうるうる亭さんは、今回土佐に行って発表されましたが、江別のことを伝える大変素晴らしい事業だと思います。

江別創造舎さんは3年目でしたが、是非継続してほしいと思います。

メディネット江別さんも3年目ですが、江別の素晴らしさを映像で伝える事は大切ですので頑張ってもらいたいと思います。

フォーラム野幌の森さんは、特に野幌原始林は江別にとってだけでなく北海道の財産ですので、守っていく活動を頑張してほしいと思います。

NGO江別で外国人と仲良くしよう！さん、江別は特に留学生や外国人が多い町だと思います。その方々が住みやすい町を作る意味でも重要な事だと思いますので活動を頑張って下さい。

江別子ども劇場さんは、是非メンバーを増やしてしてほしいと思います。

幸せなまちづくり江別の会さんは、ありがとうポストのツールがやっと完成して、次の3年目は芽が出る時だと思いますので、そこに向けて頑張してほしいと思います。

ACネットワーク研究会さんは、野菜を作って子ども達が喜んで食べるシーンを見せてもらい、素晴らしい活動だと思います。組織としてこれからだと思いますので、是非頑張ってください。

今日は、特に市民活動をされている方は忙しい中来てくださっていると思いますが、色々な方々の知恵を得る事が出来たのではないかと思います。本当にありがとうございます。そしてお疲れさまでした。